平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市民ネット･むろらん
議員名	水江一弘、児玉智明、小田中稔、髙橋直美、立野浩靖
調査実施年月日	平成26年　7月　17日
調査先　自治体名等	山口県萩市
調査項目	萩市立図書館の運営について
調査目的	本市における図書館の老朽化、耐震強度不足による今後の対応策の参考にするため
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：52，031人（H26．4．1現在）　　行政面積：698．79k㎡ 2　視察内容 ①　図書館の運営の経緯について ②　運営の現状について ③　図書館建設における経緯について ④　課題について
感想（まとめ） 本市へ生かせること等	萩図書館は昭和34年に阿武郡立図書館として開設、日本で最初の郡立図書館･県内最初の公立図書館であった。昭和49年に旧萩市立図書館としてオープン平成23年1月に旧図書館が解体同年3月に萩市立萩図書館新館が会館。児童間との複合施設として図書館11億児童館3億、計14億円をかけNPO萩みんなの図書館との協働運営が開始されました。 NPOへの委託、管理費は年間5500万円を計上、市職員5名NPOからは理事6名職員18名の体制で運営をしている。 特色ある取組みとしては①NPO法人との協働運営②司書と保育士によるコラボサービス③国立国会図書館デジタル化資料送信サービス④電子図書館･デジタルアーカイブの開設⑤読書通帳機の導入⑥明治維新関連資料の充実とレファレンス専門員制度の導入⑦ICタグ･自動貸出機の導入と館内返却ポストの設置⑧雑誌スポンサー制度の導入⑨行政資料のワンストップサービス⑩無線LANの導入などがあり本市においても可能な内容があるものと思われ、非常に参考になりました。蔵書が多いことから今後管理するスペースの拡大が課題となりそうです。萩図書館の基本方針は①市民のだれもが気軽に利用できる図書館②子供の創造性を育む図書館③ひとづくり･まちづくりの源となる図書館④市民の暮らしに役立つ図書館の4つを掲げており本市の図書館もこのような基本方針を参考に今後の図書館のあり方をふまえ図書館のリニューアルを検討、実施していくべきと考えさせられ、とても実のある内容でした。